パチンコ多重債務 客だけの問題でない

依存症対策 業界が支援

4月に相談・研究機関設立

全国のパチンコ店でつくる全日本遊技事業協同組合連合会（全日遊連、東京）は、一部で深刻化するパチンコ依存症対策のため、業界独自の相談・研究機関「リカバリーサポートネットワーク」を今年四月に設立する。依存の悩みを抱えた人の回復を支援するほか、依存症の調査、研究に取り組み、五年後をめどに回復支援プログラムの確立を目指している。

パチンコ、パチスロを含むギャンブル依存症については、一部の行政機関、民間団体が相談窓口を設けているが、体制は十分といえず、対策が遅れることで多重債務や家庭崩壊など深刻な事態を招く場合があるという。

依存症の背景にはパチンコ店側の厳しい店舗間競争の中で、一台当たりの利益率が高まる射幸性の高い台を多く導入したことがある。客はより刺激を求める傾向があるため店側もより射幸性の高い台を導入するようになり、業界全体のギャンブル化が高まっていった。

一方、そのギャンブル化に嫌気が差した客は店から去ったため、全日遊連は危機感を抱き、ここ数年、「パチンコを身近で手軽な大衆娯楽に戻す」ことを目標に、路線転換を模索してきた。パチンコ台のメーカー側に、射幸性を高めるのでなく、多様性ある機械の開発を要望するなどしてきたが、今回の取り組みもこの見直しの一環だ。

ネットワークは独立した非営利団体とし、全日遊連は運営資金を拠出して活動を支援する。代表理事には精神保健の専門家など六人が就く。

初年度は現状分析に力を入れ、相談者に対しては依存症対策に取り組む他団体や行政機関と連携しながら回復を支援していく。同時に全国各地で相談を受け付ける体制づくりを進めるため、専門の相談員を育成する。相談を受けた事例の調査、研究を進め、将来的に依存から立ち直る道筋を体系化した回復支援プログラムを作成する。

各パチンコ店に対しては、依存症に関する相談があった場合、ネットワークの窓口に取り次ぐ体制もつくっていく。

西村医師は「パチンコ依存は薬物依存などと比べ顕在化しにくく、借金など他の問題も複雑に絡む。家族など周囲に問題を拡散させないような効果的な回復支援を目指したい」と意気込む。

北海道遊技事業協同組合連合会の田中亀雄理事長は「道内のパチンコ店経営者も依存問題への関心が高く、道内での相談窓口づくりに取り組みたい」と話す。

また、ギャンブル依存の相談を受け付けている道立精神保健福祉センターの田辺等所長（精神科医）は「家族の側が積極的に社会的責任を果たす姿勢は評価できる」としている。

メモ

パチンコ依存症　パチンコやパチスロに過度に没頭し、多重債務や、家族や職場の人間関係悪化を招いているのに、自らを抑制できず、抜け出せない状態。世界保健機関（WHO）はギャンブル依存症を「病気」と認めている。道立精神保健福祉センターが受けたパチンコ、パチスロを含むギャンブル依存の新規相談件数は2004年度67件で、5年前と比べ2・7倍に増えている。

来店者減少に危機感

オホーツク中心に大荒れ

千島近海と渡島半島沖で発達した二つの低気圧の影響で、道内は四日午前、オホーツク海側を中心に吹雪や強風など荒れ模様となった。暴風雪は同日夜まで続く見通しで、札幌管区気象台は交通障害などに注意を呼び掛けている。

同気象台によると、同日正午までの二十四時間降雪量は、登別市で三二センチ、網走管内西興部村で二八センチなど。同日午前の最大風速は、檜山管内奥尻町で二〇メートル、根室市で一七メートルを記録した。

この影響で、空の便は、エアーニッポンネットワーク（ANK）の丘珠発着内行き一便と折り返しの新千歳行き一便、女満別空港発着の四便の計六便が欠航。中標津空港は、オホーツク海や日本海沿岸の多いところで二〇センチになる見通し。風は最大三二メートル、陸上で同一七メートルに達する見込みだ。

スキー場雪崩 さらに2カ所

新潟県湯沢町の二つのスキー場で三日、十六人が雪崩に巻き込まれた事故のけが人は、重傷一人のほか軽傷が九人いたことが四日、魚沼署の調べで分かった。同町のほかの二つのスキー場でも雪崩が起き計十人が巻き込まれたことも判明した。十人にけがはなかった。

調べでは、湯沢町湯沢のガーラ湯沢スキー場では三日午後三時四十分ごろ、積雪約二メートルのゲレンデの雪が幅約六十メートル崩れた。東京都と埼玉県の男性が巻き込まれたが、自力で脱出した。同町中里の湯沢中里スキー場では三日午後一時四十五分ごろ、雪崩に計八人が巻き込まれたが、いずれも自力で脱出するなどした。

携帯電話で「SOS」

ヘリが男女2人救助

札幌・無意根山

四日午前六時ごろ、札